



TITLE:

我が國に於ける麻の供給

AUTHOR(S):

津田, 秀郎

CITATION:

津田, 秀郎. 我が國に於ける麻の供給. 地球 1930, 14(4): 252-266

ISSUE DATE:

1930-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183824>

RIGHT:

多の赤道が交錯してゐるが、實は然らずして大陸漂移を考慮に入れれば該大陸は必しも赤道交錯線上に存在するとは限らないことを理解するに難くない。各大陸の形狀・面積に甚しい歪が生じたが赤道を簡易に表現するといふ主目的のためにはそれらが犠牲となることも止むを得ない。

此の作圖の結果最も興味を感じる點は各地質時代の赤道がエクアドル附近とその對蹠點たるスマトラ四近とに於て大體交叉する事で、ライビツシュの所謂搖動軸が認められる。

我が國に於ける麻の供給

津 田 秀 郎

麻は絹・綿と共に古くから被服材料として廣く用ひられてゐる。麻の纖維を供給する植物は熱帶地方から比較的低温な(年平均三十五度乃至四十度)溫帶地方に至る迄殆ど各地に生育し得るが、その或ものは栽培に、製絲に多大の勞力を用し、製産費を多く要するため、漸次絹・綿に驅逐されるやうになつた。しかし、その纖維は絹・綿の有しない特性を持つてゐるため、洋服地・上布・蚊帳地、また軍需品として近年頗るその需要が増加した。その粗硬なものでも荷造用の袋・綱などの原料として應用の範圍が極めて廣い。

我等が普通麻と稱してゐるものには、大麻・苧麻(ラミ)・亞麻・黃麻など種類が多い。これ等は何れも我が國の殆ど各地に栽培されてゐるが、その産額多からず最近三ヶ年(昭和一―三年以下これに順ず)の平均産額は僅か

八百萬貫(五千萬斤)、價額五百三十三萬四千圓に過ぎない。然るに近年麻類の需要激増し最近三ヶ年平均その額二千四百萬貫(一億五千萬斤)に達する状態にあるが、我が國の産額は需要額の僅か三分の一を充たすに過ぎないで、年々一千六百萬貫(一億斤)、二千四百萬圓を他國から仰いでゐる。即ち支那・インド・マニラから。

その他マニラ麻、ニュージールランド麻、シザル麻(サイサル麻)、イチビなど種類が多い。

我が國に於ける最近三ヶ年間の麻類の産出額、輸入額を示すと次のやうである。

種類	生産額	輸入額	備考
大麻	三、七三七 <small>千圓</small>	— <small>千圓</small>	栃木、長野を主産地とする。
亞麻	一、二七〇	四三	北海道を主産地とする。
苧麻	四九	七、七九一	過半数は支那から輸入する。
黄麻	二七八	二、二九三	臺灣に多く産する。主としてインドから輸入する。
マニラ麻	—	一三、七八六	フィリッピンから輸入する。
その他	—	二九三	イチビなど。
總計	五、三三四	二四、二〇六	八一六千圓を再輸出する。

大麻は最も普通のもので、栃木・長野・廣島の諸縣を始め、山間の畑地に廣く栽培されてゐる。雌雄異種であつて、雌本は雄本に比し大きく分枝少く、生育期間長く収量も多い。しかし、品質は

雄本の方が遙かに勝れてゐる。概して氣溫・濕度高く、かつ成熟期には氣候の乾燥する地方を好む。また火山地方の裾野の砂質或は礫質壤土の排水の良好な土壤を好む。谷間の風の當らない所はその生長に特に適してゐる。

播種は四月上旬で、その後百十日前後の土用の始め頃に刈り取る。多くは山間の畑地に作られるが稀に二毛作として水田に作られることもある。この場合は採集期早きに失するため品質は稍々前者に劣つてゐる。

纖維は一般に強靱、かつ耐久力が強い、軍用索綱として需要多く、その他麻布、蚊帳地、漁網、疊終糸、蓆の經糸として、下等品は製紙原料、船の填充材として需要が極めて多い。しかし近年低廉な外國產麻類の壓迫を被り、次表（内地產額）に示すが如く漸減の傾向を辿つてゐる。

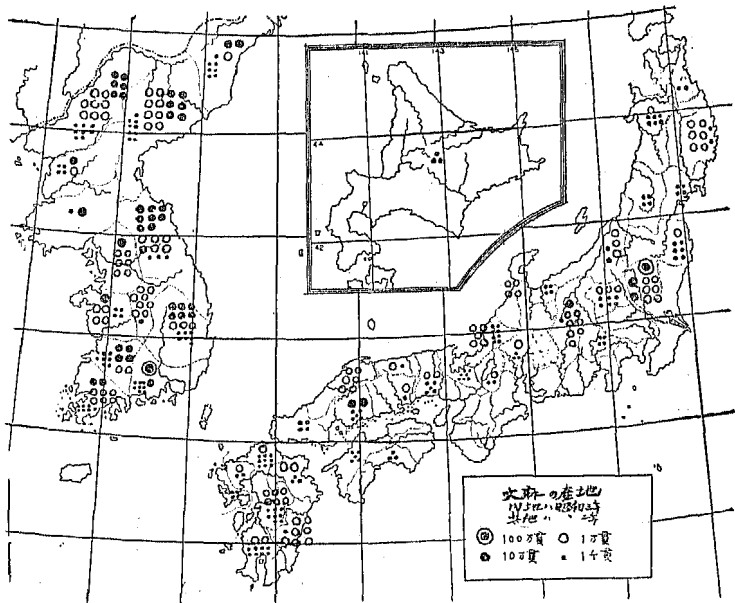
	收穫高(貫)	價額(圓)
大正4	2,473,371	1,837,388
5	2,263,633	1,880,480
6	2,365,720	2,322,787
7	2,564,114	3,155,968
8	2,564,358	5,913,948
9	2,333,774	3,821,437
10	3,138,400	6,140,067
11	3,150,760	5,157,826
12	1,802,075	2,792,796
13	2,231,468	3,090,536
14	2,130,464	2,324,329
昭和1	2,489,347	3,560,466
2	2,256,262	3,670,790
3	2,362,033	3,981,514

内地總產額は二百萬貫を超え、府縣別には第一

圖に示すやうに、栃木縣は内地第一に位し、内地總產額の53%を占めてゐる。廣島縣9%、長野縣7%これに次ぎ十萬貫以上を産する。概ね分布圖に示すが如く、米を産する地方よりは山間、畑地に富む地方に栽培が盛んである。上述の三縣の外は何れも一萬貫未滿で、東京・神奈川・静岡・大阪・和歌山・徳島・沖繩の七府縣は全く產出しな

第一圖

我が國に於ける麻の供給



い。埼玉・愛知・三重・奈良の四縣は産額極めて少く年産百貫にも充たない。

栃木縣は氣候・風土等大麻の生育に適してゐる。従つて農林省は縣農事試驗場に補助獎勵金を交付して、品種の改良を行はさせ、良種子の配付を行はしめ斯業の改良を圖つてゐる。成績着々上り年産額昭和三年度百萬貫を超えるに至つた。上都賀・下都賀兩郡はその中心である。栽培されてゐるものに白木(青木)、赤木の二種類がある。その區別はあまり判然としてゐないが、六月中旬以後になると初めて差が認められるやうになる。大體次の如き差がある

赤木	白木	葉莖	
		の色	織
淡褐	淡緑	栽培最も廣く、纖維は銀白色で光澤は良いが、彈力稍々弱い。	纖維は淡褐色で彈力は極めて強い。

大正十二年以後の産額(栃木縣)を示すと次表のやうである。

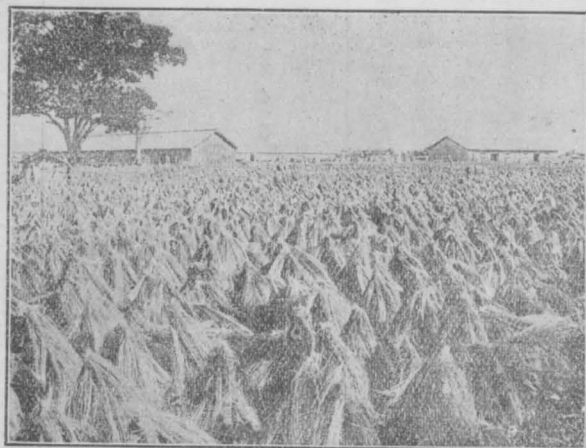
	收穫高(貫)	價額(圓)
大正12年	492,355	2,042,964
13	993,454	3,267,235
14	894,433	2,524,160
昭和 1	734,394	1,680,421
2	638,213	1,966,007
3	1,259,090	2,253,209

朝鮮は各道到る所に産し、その總産額最近三ヶ年平均五、六二八、六五六貫に達し、内地總産額の二倍を超えてゐる。江原道・慶尙南道は主産地で、平安南道・慶尙北道これに次ぎ産額年と共に増加してゐる。明治四十三年頃の産額に比較すると三倍以上の増額となり、一段歩の收穫も九貫四百匁より一躍して二倍の十八貫五百匁に達してゐる。その産額を示すと次の表のやうである。

朝鮮では麻皮を清水に浸し太陽に晒して自然に漂白して、纖維を細くさいて糸とし、これを居坐機にて麻布に織る。夏の衣服・裏服・帆布・袋その他に用ふ。年産額苧布と合せて平均二

年次	收穫高	一段歩收穫高
明治43年	1,746,740貫	9.4貫
44	2,213,373	11.8
大正 1	2,546,558	12.8
2	2,859,700	13.9
3	3,036,236	13.8
4	3,100,444	13.8
5	3,224,477	14.0
6	3,905,228	15.5
7	4,598,535	17.4
8	4,720,211	16.9
9	5,331,080	19.0
10	5,413,690	19.5
11	5,584,650	19.4
12	5,559,292	18.9
13	5,557,649	19.0
14	5,547,701	18.8
昭和 1	5,799,082	19.4
2	5,618,407	18.8
3	5,468,696	18.5

第 二 圖



北海道上に於ける亞麻の乾燥(日本地理風俗大系)

百六十七萬反に餘り、なほ需要を充たすに足らないで、年々内地、支那から輸入してゐる。

亞麻は溫帶中稍々涼しく空氣の濕潤な、排水良好な壤土または砂質壤土の地を好む植物であつてインドから北極洋沿岸迄各地に産する。連作に適しないため廣地域を必要とし、かつあまり肥沃な地方は生育は良好であるが、纖維が粗硬であるため、内地の如き肥沃な耕地に適しないで北海道の如き地方に適する。

北海道に初めて亞麻が試作されたのは明治二十三四年頃で、その後當局者の指導宜しきを得、年々産額激増し、多大の纖維を産するやうになつた。中でも歐洲大戰中ロシアからの輸入杜絶し、かつ軍需品として需要頓に増加したため、斯業の發達目覺しく大正八九年頃は産額その極に達したが、戦後漸減し、現今では戦前とほぼ同程度にまで低下した。

内地最近三ヶ年平均總産額四、八一六、八六四貫、百二十七萬圓である。殆んどすべて北海道に限られ(99%を占む)、極めて僅か秋田・山形など東北地方の諸縣に産するに過ぎない。北海道では上川・空知・後志・河西・網走の支廳に多い。

北海道の最近産額を示すと次表のやうである。

年 次	産出額(貫)
大正 3年	7,705,104
4	8,635,891
5	12,586,540
6	12,265,835
7	17,189,578
8	12,365,403
9	17,303,368
10	13,644,001
11	6,728,247
12	7,792,308
13	5,872,120
14	8,967,734
昭和 1	8,544,719
2	2,337,667
3	3,570,158

亞麻の纖維は良質でリンネル・帷子・洋服地・蚊帳地・晒布・メリヤスその他薄織物・漁網用、また軍需用品(飛行機翼、砲車、砲彈袋地)として需要が中々多い。その種子は亞麻仁と稱し、これから採油する亞麻仁油は印刷用インキ、油繪具その他工業用として用途廣く、英國などへ輸出してゐる。

纖維をとるには若い中に引き抜かないと良質のものを得ることが出来ない。種子をとるには成熟さす必要がある。従つて兩目的を兼ねて採集することは困難である。纖維用には溫帶の稍冷濕な北海道、ロシアなど、種子用には土地肥沃な熱帶地方がよい。即ちインド、アルゼンチンなどである。北海道では纖維、種子共に採集してゐるものが多い。

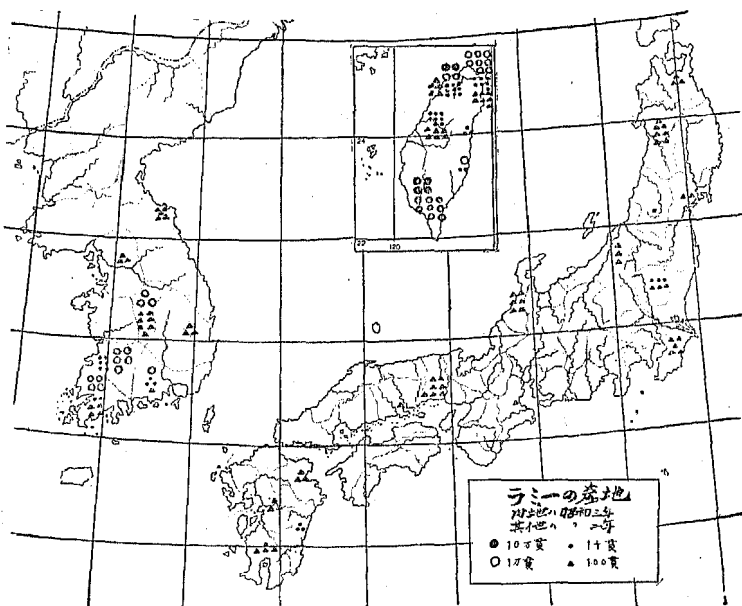
品種にはロシア、ベルギー、アメリカ種などある、ベルギー種は我が國に最も適し品質も良好である。我が製麻會社では試作農場を経営し、輸入原種子を複種として農家に配付し、極力亞麻栽培を奨励してゐる。

苧^ラ麻は「からむし」から採る纖維である。からむしは熱帶から溫帶の空氣の稍々濕潤な地方の平地、

または山間の傾斜地を好む植物で、我が國では排水のよい壤土、砂質壤土に栽培されてゐる。同一株から七八年採集することが出来る。暖地では年二三回收穫し得るが、東北地方では一回收穫し得るに過ぎない。ラミーが製麻工業の原料に供せられるやうになつたのは比較的近年のことである。その價額の低廉、かつ用途が廣いため需要は極めて廣い。蚊帳糸、ミシン縫糸、疊糸、帆布、漁網、

第三圖

我が國に於ける麻の供給



上布、帷子、友禪、各種混織用糸などに用ゐられてゐる。

内地では栃木・山形・宮崎・滋賀の諸縣に古來上布の原料として用ゐてゐたが、製麻に勞力を多く要するためあまり栽培されない。従つて近年工業の發達と共に需要激増し、支那、滿洲、臺灣から輸入してゐる。

内地總產額(最近三ヶ年平均)は僅か十四萬貫で、栃木16%、宮崎12%、山形9%、鹿児島4%の諸縣を主產地とする。

東北地方產のものは丈が低いが、臺灣沖繩などの溫暖地のものは長大である。内地では四月頃に播種して翌春植ゑかへ、八月頃又は降霜前に新芽が四五尺位になると刈取る。

初年には收穫不可能で製絲に勞力(一反歩當り七十)多く、生産費高かつくためあまり栽培されない栃木縣の製麻工業でも内地產は高かつくため支那產を原料としてゐる状態にある。輸入を防ぐため、近時農林省では

フランス流のボール式皮剥方法（一反歩當り二十人の勞力にてすむ）を奨励し、優良品種を配付しラミীর栽培を奨励してゐる。臺灣は氣候・風土よくラミীরに適し、古來臺北、宜蘭、新竹州の蕃地に栽培され、臺北、新竹州は主産地で總産額の78%に達してゐる。臺南州噍吧哖附近産のものは品質優良で知られ、内地種に優り内地にも移植されてゐる。白皮・烏皮・大有・沙蓮・紅心・青心・鐵綠枝・蕃苧など種類が多い。北部では九・十月、南部では十二月乃至三月に播種し翌年から七八年乃至二十年に亘り收穫する。産額（最近三ヶ年平均）二一三、九〇二貫、六一一、六八三圓に達し、内地産額の二十二倍を遙かに超え、その約五割は支那へ、約一割五分は内地へ上布の原料として移出してゐる。近時支那への輸出は漸

減し、内地への移出が増加しつつある。

朝鮮では全羅北道・忠清南道などの氣溫、濕度の高い地方のみに限られてゐる。最近三ヶ年平均産額一四五、九〇四貫、内地産額の約十六倍を超過してゐる。けれども朝鮮の需要を充たすに足らず、麻布として年々多數内地から供給を仰いでゐる。

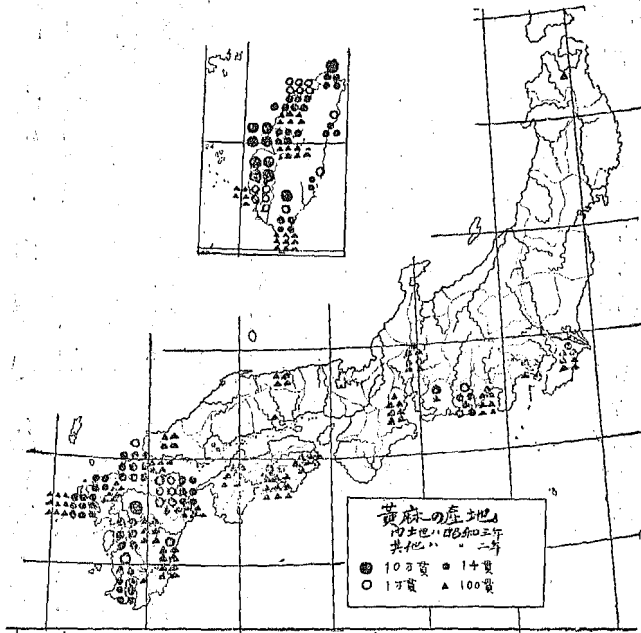
黃麻は「つなそ」から採集した纖維である。

「つなそ」は熱帯から溫帯にかけて氣溫の高い季節風帶の濕潤な地方を好む植物で、冲積地

大正四年以來の産額

	内地	朝鮮	臺灣
大正4	23,967	106,369	251,681
5	25,782	96,156	253,596
6	28,562	61,128	257,962
7	24,139	102,692	282,791
8	20,945	117,823	276,640
9	19,097	118,108	258,784
10	13,536	122,937	200,464
11	9,448	133,722	270,992
12	8,904	138,121	298,352
13	7,530	152,160	343,648
14	7,568	154,487	337,606
昭和1	14,127	155,705	338,912
2	12,682	143,306	309,152
3	14,511	139,704	320,672

第 四 圖



我が國に於ける麻の供給

の腐植質壤土また壤土に適し、時に田にも作られ丈餘にも達する。インドのガンジス河デルタは最もその發育に適し産額世界の過半を占め世界各國に供給してゐる。我が國では太平洋岸の氣溫の低い、かつ雨量の多い地方に限られてゐる。臺灣、九州、四國、靜岡、千葉などに栽培され、比較的

夏季雨量の多くない日本海岸地方には産出額極めて少い。

最近三ヶ年平均産額二七六、〇四二貫二七八、一二五圓で、熊本36%、大分22%、靜岡11%、福岡18%の各縣はその主産地である。

纖維は灰褐色で麻類中品質は稍々劣つてゐる。内地では疊表の縦糸用として栽培されるもの多く、殆ど家内工業用に消費されてゐる。近年工業の發達に伴ひ逐年需要を増し、工業原料としてインド麻の輸入が多い。最近三ヶ年平均インド麻の輸入一、七八九、八二四貫、六十二萬圓、臺灣よりの移入一七八、五七六貫、

十八萬八千圓に達し、内地總產額の六倍を超えてゐる。その製品は荷造用粗布が主で、米その他の穀物用袋、敷物、把束用及び索綱用として用途が多い。

臺灣は氣候風土内地に優り、その栽培廣く臺南、臺中、高雄の各州はその主產地で、最近三ヶ年平均產額一、〇四一、五六八貫、八三八、四六九圓に達し、内地の三倍以上を産する。臺南のみで昭和三年に同年内地產額の一倍半の四五〇、六三二貫を産し、最小產額の新竹州すら内地の約四分の一を産する。かくの如く内地に比し多く産するも逐年需要を増し、本島産のみにては需要を充たすに足らず年々インド、支那から輸入を仰いでゐる。昭和三年度インド、カルカタから七二、六一八貫、八六、九四二圓、支那から六九七、五八四貫、六一五、四二九圓を輸入した。

大正四年來の產額を表示すると次の様である。

	内地	臺灣
大正4	225,944貫	649,869貫
5	238,561	706,990
6	332,136	734,803
7	350,287	785,576
8	356,038	758,888
9	344,046	617,734
10	353,000	612,743
11	277,111	775,031
12	293,884	835,991
13	281,996	959,300
14	277,309	950,786
昭和1	261,591	983,055
2	284,122	973,791
3	282,413	1,168,333

苧麻イチビはアブラロン・アヴィセンネからとる纖維である。この植物は一年生で（五六月頃に移植し、九〇一）あつて、高さ六―七尺、莖には細毛が密生してゐる。粗鬆質なローム質又は粘土質の土壤を好む。我が國の九州の南、滿洲、支那の中部に多く作られる。纖維は白色で長く強靱であるが、大麻、亞麻に比し品質は劣つてゐる。主として綱、繩、布の製造に用ひ、黄麻の代用として穀物を容れる

袋の原料とする。多く支那から輸入するが、他の麻類と合せて統計されてゐるため、正確な数字は明かでない。

その他臺灣にはサイ・サ・ハ麻を産するが、産額は微々たるものである。(高雄州を主とし年額八〇、〇〇〇、一〇〇、〇〇〇、四四三圓)

我が國に於ける麻の供給 (昭和1—3年平均)

	大	亞	亨	黃	總
內	栽培面積 7,455町 2,513,216貫 7,737千圓 33.7貫 反當收穫高 主要生産地 (内地總生産額) に對する% 栃木51% 廣島9% 長野7% 岩手5%	10,492町 4,816,864貫 1,270千圓 46.6貫 北海道99%	146町 13,776貫 49千圓 9.6貫 栃木16% 宮崎12% 山形9% 鹿児島4%	608町 276,043貫 278千圓 42貫 熊本36% 大分22% 靜岡11% 福岡10% 鹿児島7%	18,701町 8,619,904貫 5,334千圓 — 近畿63.2% 大縣33% % 廣島3.6% 宇縣0.2%
朝鮮	栽培面積 29,775町 5,628,656貫 19.8貫 反當收穫高		1,602町 145,904貫 9貫		31,377町 5,774,560貫 大縣97.6% 宇縣2.4%
臺灣	栽培面積 1,696町 322,912貫 611,683圓 19貫 反當收穫高		2,450町 13,535,474貫 838,469圓 42貫 黃麻99.5% 芋麻0.5%		4,146町 13,858,386貫 1,450,152圓

麻の輸移入（昭和1—3年平均）

	大・麻	黄麻	マニラ麻	苧麻	亞麻
支那	1,956,032貫 2,014,119圓			3,287,696貫 5,776,775圓	
インド		1,789,824貫 2,293,364圓		満洲からの苧麻 輸入（昭和2年） 27,860擔 231,063圓	
フィリッピン			9,905,040貫 13,785,891圓		
臺灣		178,576貫 178,133圓		92,368貫 185,895圓	
露領アジャ					5,440貫 19,178圓
イギリス					5,424貫 24,385圓
その他		140,360貫 268,137圓		10,352貫 24,871圓	

輸移入合計 17,372,112貫, 24,570,754圓

結尾 内地に於ける供給は別表のやうであるが、需要額は年々増加し最近三ヶ年平均二四、八六三、八〇〇貫で、到底その需要を充たすに足らず年々一千六百萬貫を他國から仰いでゐる。こは氣候・土壤が麻に適してゐないためではなくて、米・麥その他の農産物及び絹・綿に壓迫されたためである。山間の畑地の大麻に適する地方では耕地は多く桑栽培地としてゐる状態である。ラミーは製産費高さに失するためであるが、前述のフランス式剥皮法が採用されるやうになるならば、定めし産額も増加することと思はれる。亞麻は北海道に於ける栽培の發達に伴ひ輸入も次第に減少し、近年英國その他へ輸出するやうになつた。

引用した統計書

第四十七回内閣統計年鑑

第五次農林省統計書

工藝農産物要覽(昭和五年)

臺灣商工統計(昭和三年度)

朝鮮商工統計(昭和二年度)

北海道概況(昭和二年)

栃木縣統計書第三編(昭和二年度)